

## ■ 全体講評

午後 I 記述式試験は、正解を導くためのヒントが問題文に書かれている問題になっていますが、本試験も同じ構成になっています。これらのヒントを見抜いて解答を検討できるようにしてください。

以下に、午後 I 記述試験講評を述べます。

### ■ 午後 I 記述式試験講評

4 問中 2 問の選択になります。問 1 は、モバイル端末導入に関する監査、問 2 は、運用・保守業務の監査、問 3 は、システム開発の企画段階における監査です。システム監査技術者試験の午後 I 記述式試験では、このように、業種やテーマが広範囲にまたがって出題されています。自分の経験や専門知識を活かせるテーマを選んで解答することが大事です。

問題の選択についてですが、問 1、問 2 を選択する人が多数を占めています。

次に記述式問題における確認項目を説明します。

#### (1) 問題文の重要キーワードを解答に盛り込む

記述式問題では、問題によって正答率に違いがあります。問 2 の正答率は低いです。問 2 では、運用支援ツールのログと、ドキュメントの突合せが必ず解答にあると考えるべきです。

問 2 では、監査証拠である重要なキーワードである「運用支援ツールのログ」を適切に解答に盛り込んでいない解答が多かったために、正答率が低くなったと判断します。重要なキーワードを確実に解答に盛り込むようにしましょう。

#### (2) 原因を解答する場合は「なぜ」を繰り返す

問 1 の設問 2 では、原因が問われていますが、「バージョンが古い」という解答では、得点できません。なぜ、バージョンが古いのかを考えるとよいでしょう。原因が問われた場合は、なぜなぜを繰り返して、解答を精練します。

#### (3) 問題文の記述内容から得られる結論を解答に盛り込む

問 3 の設問 3 では、問題文に「取締役であり非常に多忙なので」とヒントが書かれています。ここで「非常に多忙だから」と解答しては得点できないと考えてください。問題文の状況から得られる結論を解答に含めるようにします。

午後 I 論述式試験、及び、午後 II 論述式試験を通して、次の点を確認してください。

(1) 名詞を問われている、あるいは、箇条書きのタイトル以外は体言止めを使用しない。

(2) 略字を使用しない。

(3) 誤字がないかを見直す。

(4) 適切に問題を選択しているかを確認して解答用紙を提出する。

本試験では、午後 II 論述式試験が終了するまでの体力や集中力を考えて、午前の多肢選択式問題の開始から、午後の論述式試験の終了まで、実力が発揮できるようにしましょう。

### ■ 問題ごとの午後 I 記述式試験講評

#### 問 1 営業員のモバイル端末導入

##### 【講評】

設問で問われている内容を基に解答の語尾を調整するようにしましょう。理由を問われているのに、「～という不都合」などの解答が散見されました。

次に各設問の講評を述べます。

##### [設問 1]

設問では理由を問うているので、「～から。」「～のため。」など理由を示す語尾にしましょう。

##### [設問 2]

原因として、プログラムのバージョンが低いという旨の解答が散見されました。なぜなぜを繰り返して、プログラムのバージョンが低い原因を導きましょう。

##### [設問 3]

「サーバの抽出プログラムを起動していない」旨の解答が散見されました。問題文にある「対応テーブル（以下、対応テーブルという）を使用してサーバの抽出プログラムで営業員別に生成される」という記述から、データの抽出時に対応テーブルを参照していると考え、正しいですが不正解としました。

##### [設問 4]

モバイル端末の使われ方の違い、教育内容の違いなど、簡潔かつ的確に確かめるべき事項を指摘するようにすると、高得点につながります。

### 【採点基準】

#### [設問 1]

不都合が発生した理由について述べます。それぞれ解答例の趣旨にあった解答であれば各 10 点。その他は、基本的に 0 点。

#### [設問 2]

原因については、更新が必須になっていない点、及び、

古いプログラムが使用された点について述べます。解答例の趣旨に沿った解答であれば6点。それ以外は0点。

監査証拠については、「プログラム属性の設定」及び「配信記録」を必須とし解答例の趣旨にあった解答であれば各4点。それ以外は、基本的に0点。

#### 【設問3】

「対応テーブル」を必須とし、原因について述べます。解答例の趣旨に沿った解答であれば10点。それ以外は、基本的に0点。

#### 【設問4】

解答例の趣旨に沿い「各営業所の教育の内容の違い」、「モバイル端末の使われ方の違い」を指摘してあれば各8点。それ以外は、基本的に0点。

## 問2 運用・保守業務の監査

### 【講評】

監査証跡であり重要なキーワードである「運用支援ツールのログ」が解答に盛り込まれていない解答が多く、正答率の低い問題となりました。

次に各設問の講評を述べます。

#### 【設問1】

解答を書く際に**問題文にあるキーワードを省略しない**ようにします。例えば、「登録結果リスト」を「結果リスト」と書いても得点できないことを確認してください。

#### 【設問2】

**リスクについて問われている場合は、できるだけ語尾を「～リスク」とするとよいです。**解答例にあるように、**リスクの表現には、「発見できない」など、問題点を含めるように**します。

操作ミスに関わるリスクが低減できない旨の解答がありました。[緊急作業]の(5)の「依頼したとおりの作業が実施されたことを確認し」の記述を根拠に、厳しいですが、不正解としました。

#### 【設問3】

運用支援ツールのログと作業依頼書の突合せについて具体的に書いてある解答を正解としました。

#### 【設問4】

厳しいですが、原因究明と再発防止策を記述していない解答は不正解としました。

### 【採点基準】

#### 【設問1】

「登録結果リスト」及び「ジョブ登録予定表」を必須としてコントロールを述べ、解答例の趣旨に沿っていれば10点。ただし、解答例の趣旨に沿っていても、「登録結果リスト」と「ジョブ登録予定表」の両方の記述のない解答は0点、その他も、基本的に0点。

#### 【設問2】

(1)「ジョブ登録予定表」及び「作業依頼書」を必須として、解答例の趣旨に沿っていれば10点。ただし、ただし、解答例の趣旨に沿っていても「ジョブ登録予定表」及び「作業依頼書」のない解答は部分点5点、その他は0点。

(2)「運用支援ツールのログ」を必須とし、解答例の趣旨に沿っていれば10点、ただし、解答例の趣旨に沿っていても「運用支援ツールのログ」の記述のない解答は部分点の5点、その他は0点。

#### 【設問3】

「運用支援ツールのログ」及び「作業依頼書の報告」を必須とし、解答例の趣旨に沿っていれば10点、ただし、解答例の趣旨に沿っていても「運用支援ツールのログ」及び「作業依頼書の報告」のない解答は部分点5点、その他は0点。

#### 【設問4】

「原因の究明」及び「再発防止」を必須とし、解答例の趣旨に沿っていれば10点、ただし、解答例の趣旨に沿っていても「原因の究明」及び「再発防止」を意味する字句のない解答は部分点5点、その他は0点。

## 問3 システム開発の企画段階における監査

### 【講評】

繰り返します。**問題文に書かれた状況から得られる結論を解答に含める**ように解答を導きましょう。具体的には、[設問3]では、問題文に「取締役であり非常に多忙なので」とヒントが書かれています。ここで「非常に多忙だから」と解答しては得点できないと考えてください。このように、問題文の状況から得られる結論を解答に含めると高得点が期待できます。

#### 【設問1】

「定性的効果」や「戦略的効果」などのキーワードのない解答は厳しいですが、不正解としました。

#### 【設問2】

KPIは、Key Performance Indicatorの略です。したがって、**KPIを問われた場合、KPIの表現になっている、すなわち、指標の表現**になっている必要があります。解答例の趣旨に沿った解答であっても、語尾が「～いるか」になっている解答など厳しいですが不正解としました。

#### 【設問3】

「経営企画室長が多忙」で終わっている解答については、厳しいですが、不正解としました。

#### 【設問4】

(1)「アジャイル開発ガイド」を必須としました。  
(2)「アジャイル管理ソフト」を必須としました。この

キーワードがないと、趣旨があっても、厳しいですが、部分点なし、としました。

#### 【採点基準】

##### 〔設問1〕

「定性的効果」あるいは「戦略的効果」などのキーワードを必須とし、解答例の趣旨に沿っていれば10点、キーワードのない場合は0点。その他も0点

##### 〔設問2〕

KPIの表現になっている、すなわち、指標の表現になっていることを必須とし、解答例の趣旨に沿っていれば各8点、その他は、基本的に0点。

##### 〔設問3〕

解答例の趣旨に沿っている、あるいは、「経営企画室長が多忙であるために意思決定するための時間を確保することが難しい」旨を基に開発の遅延に言及している解答を正解とし、10点、その他は、基本的に0点。

##### 〔設問4〕

(1)「アジャイル開発ガイド」を必須とし、解答例の趣旨に沿っていれば7点、ただし、趣旨に沿っていても「アジャイル開発ガイド」の記述のない場合は部分点3点、その他は、基本的に0点。

(1)「アジャイル管理ソフト」を必須とし、解答例の趣旨に沿っていれば7点。ただし、趣旨に沿っていても「アジャイル管理ソフト」の記述のない場合0点、その他は、基本的に0点。

#### ■合格にむけての学習

公開模擬試験の結果をレビューしましょう。それが終わったら、本試験問題を演習して、得点できなかった設問について、解答解説と自分が導いた解答を比較して、ギャップが生じた原因を分析する方法は、得点力を上げる方法の一つです。ぜひ、実践してみてください。

本試験で見たことがない問題に直面しても、焦らないことです。受験会場のほぼ全員がそのように感じているからです。“しっかりと専門知識を習得しているから大丈夫”と考え、問題文の趣旨をヒントにして論述内容を自分の頭から絞り出すようにしましょう。合格にむけて、がんばりましょう。

－以上－